

# 来年度が楽しみです

「現状維持は後退」

いろいろな場面で、私はこの言葉を使ってきました。「これまでやらなかった新しいことをやる」という意味で、皆さんは理解しているかもしれませんが。今日はそのことについて書きたいと思います。昨日「結の会」がありました。三年生から一、二年生への引継ぎの意味合いがある会でした。発表される内容を聞いてみると、三年生がこの一年取り組んできたことの偉大さが、ひしひしと伝わってきました。全てを書き尽くすことはできませんが、私にとって今年度印象的だったものを挙げたいと思います。

何と言っても、地域貢献の「プロジェクト・フラワー」です。昨年度の三年生が大杉再生支援に取り組み、「学校から地域へ」という動きを作りました。それを受けて、今年度の三年生は、校区の全ての地区に鉢花をプレゼントする活動に発展させました。

活動自体の充実を目指し、二回目のプロジェクトでは苗の本数や届け先を増やしました。更にはメッセージを添えて北中生の思いを届ける演出をしました。人の心を和ませるといふ花の力が、メッセージによってより強力になり、地域に予想以上の感動や喜びを与えました。

これは、昨年度の大杉再生支援の活動があったからです。昨年度の活動を基に、自分たちでアレンジや工夫を加えた結果生まれました。目的は地域貢献、しかし、方法や、活動の展開の仕方には今年度独自のものを取り入れる……「現状維持」ではなく、立派な「現状打破」だと私は思います。

二つ目は、タブレットの積極的な活用です。これまでは放送や掲示、新聞やチラシ作りが情報伝達的手段でした。しかし、今年度はタブレットが導入されたことを受け、タイムリーかつ効果的に、情報が伝達されるようになりました。「便利なものは積極的に活用しよう」とする姿勢が、これまでとは違う大きな成果を生み出しました。私は、校長室でタブレットを広げるのが楽しみになりました。

「今日はどんな情報があるのかな」といつもワクワクしていました。私の知らないところで雪かきをする生徒がいたこと。風で散らばったアルミ缶を拾ってくれた生徒の情報。給食に携わる人々の情報。トイレの使い方が日に日によくなっている情報。立ち往生した車を助けた情報……まだまだたくさんあります。タブレットを積極的に利用したことは、「現状打破」どころか「現状革新」と言えますね。一、二年生の皆さん、三年生のこの功績をどのように受け止め、どのようにアレンジや工夫を加えていきますか。それが、令和四年度の生徒会役員選挙の立候補者の公約に見られると最高ですね。卒業に向けて気もちが高まる一方で、一、二年生には、令和四年度の具体的な青写真を描いてもらいたいと思います。来年度が楽しみになってきますね！

(三月一日 記)